

# 生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.268

2014.1.1

※毎月1回1日発行  
※1994年5月23日第三種郵便物認可

■発行 東京・生活者ネットワーク  
 ■〒160-0021  
 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階  
 TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274  
 ■Eメール tokyo@seikatsusha.net  
 ■ホームページ http://www.seikatsusha.me  
 ■発行責任者 西崎光子  
 ■定価 年間1000円・1部100円  
 ■郵便振替口座 00130-3-18417

**都** 2014年度予算案発表。「東京都における今後の動物愛護管理行政のあり方について」答申(東京都動物愛護管理審議会)。

**ネット** ●府中「自分も相手も大切にする関係づくり」～デートDV予防ワークショップ～ 1月18日(土) 13:30～15:30 スクエア21・女性センター会議室(京王線中河原駅)  
 ●豊島 新春の集い 1月25日(土) 10:00～12:00 エポック10研修室1(3階)(池袋駅西口)  
 ●大田 政治塾「ゴミから考える これからの街づくり」 1月25日(土)14:00～16:00 大田・生活者ネットワーク事務所(JR 蒲田駅) 参加費300円  
 ●東京 2014年新春の集い 1月30日(木) ベルサール西新宿(大江戸線都庁前駅) 第1部 15:30～17:30 講演:前泊博盛さん(沖縄国際大学教授) 第2部 18:00～19:30 交流会 参加費:第1部無料、第2部4000円  
 ●江東 「逃げ遅れる人々」上映&トークセッション 2月9日(日) 14:00～16:30 江東区文化センター大研修室(東西線東陽町駅) 第1部:映画上映 第2部:トークセッション 鈴木絹江さん(NPO法人ケアステーションゆうとびあ理事長/映画出演者)、蔵方伸枝さん(昭和大学豊洲病院医療ソーシャルワーカー) 参加費500円

## 七生養護学校「こことからだの学習」裁判元教諭ら勝訴!

### 都教委らによる介入事件とは

日野駅前で市議会報告をする日野・生活者ネットワーク市議会議員の古池初美(左)と、来る2月16日投票の日野市議選に向けて、現職古池初美からの交代をめぐり新人吉岡なつえ(右)。2013年12月18日



日野・生活者ネットワーク市議会議員 ●古池 初美

### 性教育は、人間教育!

の教育庁関係者を降格・停職などの懲戒処分とした。

七生養護学校(知的障がい)※では、うち半数の子どもが併設されている福祉園で寮生活を送る。この園で起きた深刻な性的事件を契機に始まったのが七生養護学校の「こことからだの学習」だ(96年)。体のしくみがわかる人形など教材に工夫を凝らした性教育は、校長会においても先進的取り組みとして評価されていた。

9月、生活者ネットワークの執印真智子都議(当時・日野市)は、都議会文教委員会において「行き過ぎた性教育と決めつけたうえ、保護者・地域の声も聞かず結論した」都教委の対応を厳しく指摘、処分撤回を促す立場で臨んだ。

ところが、これに対して一部の都議らが攻撃を始め、03年7月の都議会質問で「こことからだの学習」を「常識とかけ離れた性教育」などと非難。石原都知事(当時)も「どれ(教材)をとつてもあきれ果てる」などと応じた。同校を視察した都議らは教材を押し取、同行した産経新聞記者は「過激・非常識」などと報じた。そのうえ都教委がこれに同調。早々に「調査委員会」を設置すると、8月末には「都立音・ろう・養護学校の約半数の28校で教育内容に不適切な実態がある」と公表し、9月には102名の教員・14名

また、日野・生活者ネットワークでは、同校で使われていた人形など教材を借りて、市民に開かれた学習会を開催。知的障がいがある子どもたちが社会の中で誤解されたり、傷ついたりしないよう配慮された性教育を体験する場をもった。たとえばキルティングの布で縫った筒の中に子どもが入り、暗い中で感触を楽しみ、「そろそろ出てくる?」の声で反対の出口から出てくると、皆が「おめでとう」「がんばったね」などと声をかける。これは子宮から生まれてくる瞬間を知る学習で、自己肯定感を育むことも目的。自分は生まれてきてよかったと思える瞬間の体験となった。

間の体験だ。他に、おとなの体になる変化がわかる人形なども。保護者からは、障がい児は思春期の体の変化に対応できずパニックになる、言葉だけでは理解が進まないなどが報告された。性教育は人間教育であり、自分を守る方法を知っておくべき不可欠の学びである。その意味で七生養護学校の生徒・保護者から信頼されてきた「こことからだの学習」ができなくなったことは、子どもたちにとって不幸であった。

同校元教諭らが起した裁判は、都教委・都議ら・産経新聞社に対し損害賠償を求めるものだが、その本旨は子どもたちの発達過程における課題に向きあい取り組んだ教育活動への再評価と教育者としての誇りを取り戻すこと。最高裁判決では、都教委・都議らの行為は教育基本法が禁じた「教育への不当な支配」にあたるとし都議らに210万円の賠償を命じ、「こことからだの学習」は望ましい取り組み方であったと述べるなど教育現場の自主性を認めた画期的なものとなった。

## あんてな

### NPO法人ハンディキャップサポート すまいるウィズの活動

齋藤敦子

障がいのあるひとを応援したい—思いもよらないきっかけでパニックになったり突然がんこさを発揮して周囲をこまらせたり。感情や意志を伝えたいのに障がいがあるため上手くできなくていつも何かを我慢して生きている毎日。だから知ってほしい、障がいのこと—健康に生まれた人たちにほんの少し助けてもらえたら世界はもっと広がるでしょう。数年前のハワイでの出来事です。ダウン症のS君は当時5歳でプールが大好き。ホテル

のプールに浮き輪を持参して「さあ、泳ぐぞ」というときでした。プロレスラーのような体格の黒人の監視員が近寄り「このプールは遊び道具の持ち込みは禁止だからね」。そう言われて、S君とご両親は泣く泣く退散。次の朝、S君一家は再びプールサイドへ。そしてまた昨日の監視員が…。S君のお父さんはダメ元で監視員に言いました。「この子はダウン症なので浮き輪がないと遊べないんですよ。危ないんです」と。監視員は驚いた顔で「それは気がつかなくて申し訳ないことをした。この子は特別だ。浮き輪でもなんでも持って来ていいからね」。次の日、プールサイドに現れたS君一家を待っていたかのように監視員が近づいて、「今日は僕がこの子のめんどうをみるから君たちはゆっくりして来なさい」と笑顔で言いました。

障がいがあることをカミングアウトします。だから気づいて応援してください。 [代表理事]



▲すまいるウィズでは障がい者とご家族の日常生活のサポート及び相談、学習サポートや外出時の移動支援、一時預かり、乳幼児を含む児童育成サポートを行っています。

http://smilewith.digi2.jp/